

令和2年度 第3次補正予算事業
「海外フードバリューチェーン再構築緊急対策事業」
成果報告書

持続可能な和牛のグローバルフードバリューチェーン構築に関して

2022年6月17日

日本畜産輸出促進コンソーシアム
(株式会社 銀閣寺大西)
大西 英毅

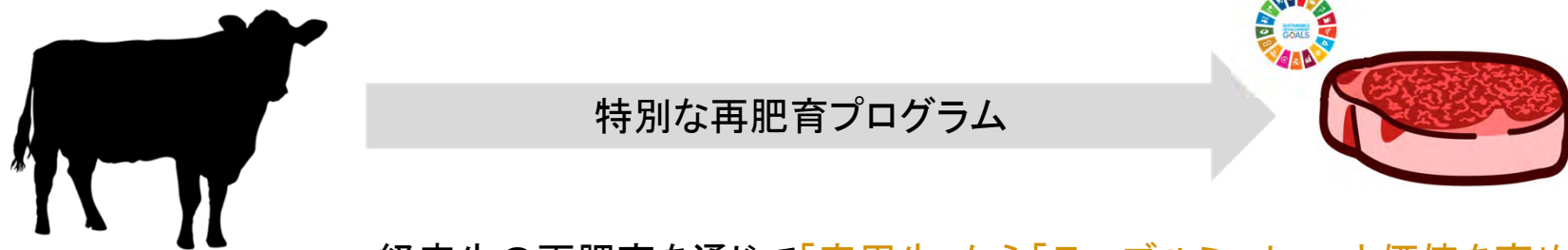
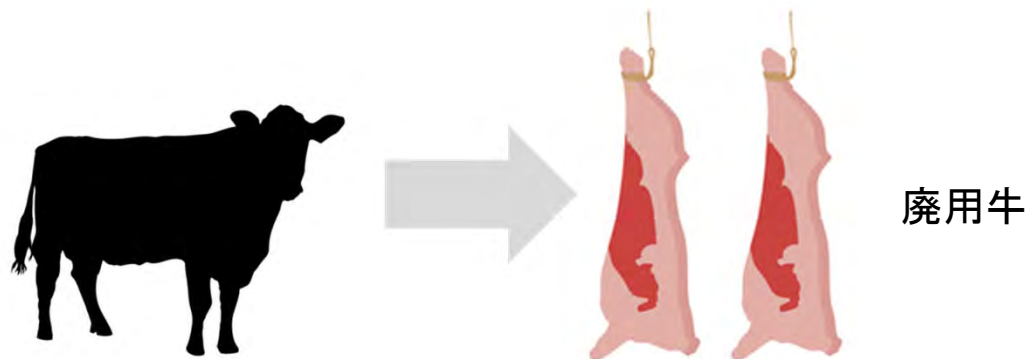
■ 事業の目的

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本来、レストラン等で一定以上の価格で提供されていた牛肉等の流通段階における滞留が起こり、低価格での取引が発生。また、コロナ禍で行き場を失った食材の「フードロス」をきっかけに、SDGsの目標の一つでもある「つくる責任、つかう責任」等を意識する先が増加傾向。
- ・ このコロナ禍で変わりつつある新たな価値観に対応し、再肥育を行った経産牛を推進し、事業化可能性調査。結果、牛肉の生産から消費に至る各段階のフードバリューチェーンの付加価値を高め更なる需要喚起を促し、また今までアプローチ出来なかった現存マーケット(例:オーガニックスーパーマーケット、飲食店)の開拓により牛肉の輸出拡大を模索。





12 つくる責任
つかう責任



経産牛の再肥育を通じて「廃用牛」から「テーブルミート」へと価値を高め、
ニーズのあるマーケットへとバリューチェーンを繋げていく。

■ 経緯

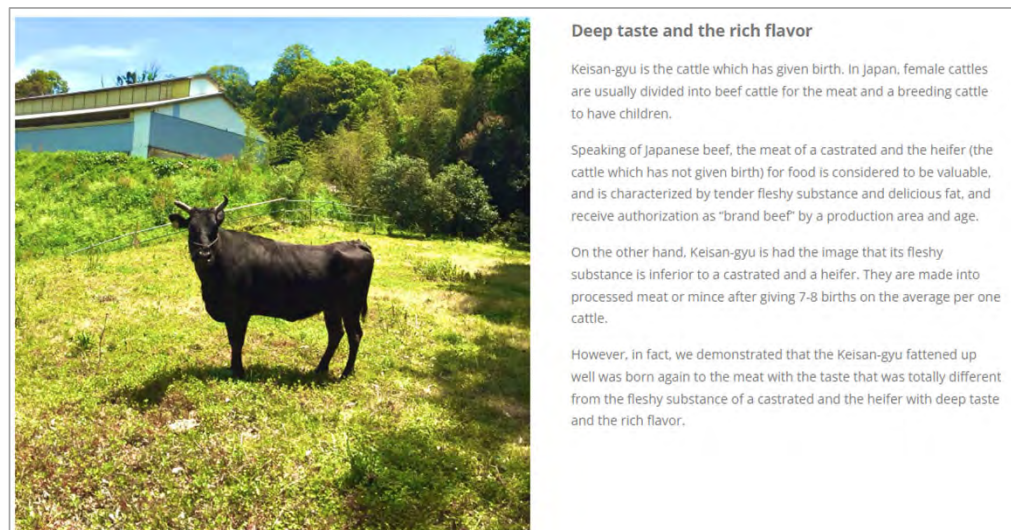
- ・ 新たなマーケットを求め牛肉の輸出を進めていく中、他国のアニマルウェルフェア、サステナブルな取組に対する考え方を理解。特に、こういった視点はEUにおいては重要視されていることも考慮すべき観点。
- ・ グローバルなマーケットに供給すべく行っている和牛の増頭計画も、その一因を担っている母牛は、日本では一般的に廃牛扱いとされ、グローバルスタンダードで見た場合のアニマルウェルフェアに沿って飼育されているとは言い難い状況。
- ・ 和牛の輸出促進を行っていくにあたり、母牛の扱いを向上させ、グローバルスタンダードであり、よりサステナブルな日本の畜産業に発展するよう整備を行っていく必要があると考察。





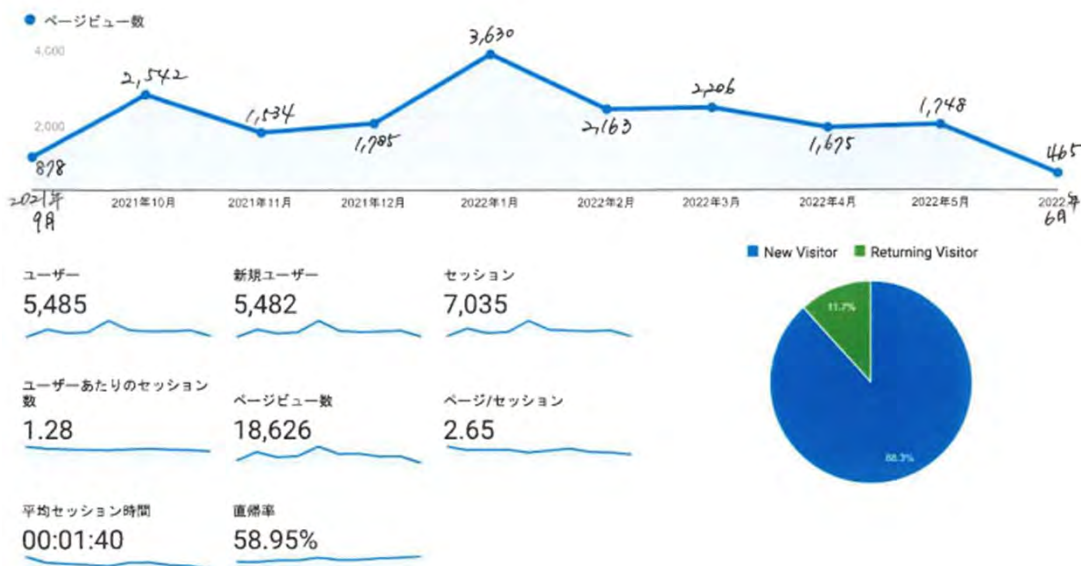
■ 方針

- ・ 経産牛を適切な管理・飼育環境下で再肥育し、テーブルミートへと価値向上を目指す。再肥育した経産牛に関する情報発信及びサステナブルな日本畜産業の取り組みをHPで情報発信・PRするとともに、オンライン講演会・現地においても情報発信を実施する。
- ・ アニマルウェルフェア及び畜産業のサステナビリティの意識が高いEUをターゲットとし、本経産牛の需要あるマーケット（例：サステナビリティ商品をそろえるEUのスーパーマーケット、飲食店等）へのアプローチを行う。これにより**経産牛の需要を喚起し、輸出促進**を目指す。
- ・ また、サステナブルな取組の情報発信を行うことで、**生産現場の付加価値を高め、持続可能なフードバリューチェーンへの意識改革及び構築**を目指す。
- ・ これまで日本からの和牛輸出に際して重視されてこなかった新たな「こだわり」を生み出し、このこだわりを繋げていくという新たなグローバルフードバリューチェーンを構築する。

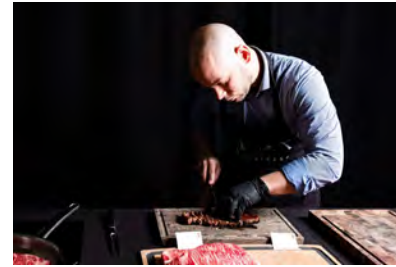


HP作成

サマリー



情報発信



ドイツ: 世界最大規模の展示会、ANUGA 2021に参加。

スイス: 日本大使館・JETROと共同イベントを実施。また、レストラン・精肉卸会社にて意見交換会を実施。

ドイツ: 精肉会社を招待し、経産牛を使ったディナーイベントやレストランシェフを招待し意見交換会を実施。

イタリア: レストランシェフを招待し、ディナーイベント・意見交換会を実施。

繁殖後の和牛 欧州も開拓

熟豊ファーム 価格手ごろ

2021年(令和3年)12月2日(木曜日)

経済新聞

繁殖を終えた雌の和牛（経産和牛）を仕入れて飼育している熟豊ファーム（島根県雲南市）は海外輸出を拡大する。これまでの東南アジアに加え、欧州市場の開拓に乗り出した。経産和牛は肉質が劣るとされてきたが、同社のは程よく脂がのり高評価を得ている。価格も割安で、海外の消費者に日本の「WAGYU」の魅力を伝えていく。

2017年創業の熟豊ファームは出産を経験した経産和牛を畜産農家などから仕入れ、同社で6〜7カ月間育ててから出荷する全国でも珍しい畜産業者だ。経産和牛は一般的に市場に流通している生後30カ月以内の若い牛に比べて肉質が劣るとされ、ひき肉や加工用に安値で取引されていた。このため農家が片手間に飼育しているのが多かった。しかし大規模飼育して

独自飼料、脂のり程よく



根県雲南市で今年から本格運用を始めた牛舎で経産和牛の世話をする石飛社長（真左）。10月にはスイスの日本大使館でバイヤー向け試食イベントを開催した

を日本で初めて開始した。「AGED-WAGYU」のブランド名で、まずはシンガポールと中国（マカオ）の両国に合わせて月に10頭前後（1頭400〜500㍑）の肉を出荷している。

21年に入ってから欧州市場に目を向け、イタリアをはじめとし、オランダやフランス、フィンランド、ドイツなどに月に各数頭分の肉を輸出した。とりわけ10月にはスイスにある日本大使館や日本貿易振興機構（ジェトロ）の協力を得て、同大使館でバイヤーやレストランのシェフ向けの試食イベントを開催した。同国への日本の和牛の輸出はこれまで年に4〜5程度と極めて少なかった

と熟豊ファームの石飛修平社長。また、これまでひき肉などにしかならなかった経産和牛を再飼育していることも、欧州で評価されているという。牛のげっぷなどから発生するメタンガスも「餌に削減効果があるとされるアマニ油のかすを混ぜ、抑えられるよう努力している」（同社長）。

現在、雲南市と山口市の自社牛舎のほか契約農家への委託も含め、550〜600頭程度を飼育している。海外輸出の急拡大で農家などからの経産和牛の仕入れだけでは足りなくなってきたため、このほど同社自らも子牛の繁殖事業に乗り出した。子牛は一般的な畜産農家と同様に国内市場に、同社の牛舎で出産した経産和牛は再飼育して海外などに出荷する。

海外で流通する「WAGYU」はオーストラリア産が広く出回っている。「まずは割安で外国

和牛生産もサステナブル

環境負荷少ない畜産探る

環境への負荷が低い畜産探る。島根県雲南市の熟豊ファームは、持続可能な畜産を意図して、和牛を生産している。和牛を生産するにあたっては、餌や飼料の調達、飼育方法、出荷方法など、さまざまな点で環境への負荷を減らす必要がある。熟豊ファームは、環境への負荷を減らすために、独自の飼料を調製している。また、和牛の飼育方法も、環境への負荷を減らすように工夫している。和牛の飼育方法も、環境への負荷を減らすように工夫している。

エサ工夫で資源循環／温暖化ガス抑制

熟豊ファームは、環境への負荷を減らすために、独自の飼料を調製している。また、和牛の飼育方法も、環境への負荷を減らすように工夫している。和牛の飼育方法も、環境への負荷を減らすように工夫している。

大粒の

【島根】島根県雲南市の熟豊ファームは、独自の飼料を調製している。また、和牛の飼育方法も、環境への負荷を減らすように工夫している。和牛の飼育方法も、環境への負荷を減らすように工夫している。

動物福祉に配慮した和牛を紹介する試食イベント、ジェトロなどが開催

（スイス、日本）



ジュネーブ発

2021年11月08日

ジェトロと日本食品海外プロモーションセンター（JFOODO）は10月14日、ベルン市内のホテルで、在スイス日本大使館との共催で、日本和牛セミナー「Introduction to Japanese Wagyu with Wagyu specialists」を開催した。食肉を扱うバイヤーやシェフなどを対象に、スイスでの日本和牛の認知度を高める目的で実施した。

セミナーでは、日本大使館の森澤淳子書記官が、日本で「和牛」と表示するために定められている条件や、日本の和牛ブランド保護への取り組みなどについて説明した。その後、日本和牛の事例として、熟豊ファーム（島根県）の石飛修平社長、輸出事業者の銀閣寺大西（京都府）の大西英毅事務が発壇し、飼育方法や和牛のさまざまな部位の活用方法について講演した。さらに、日本和牛を使ったステーキやローストビーフ、サラダなどのレシピの紹介を通じて、日本和牛を試食するセッションが行われた。

スイスは世界で最も厳しい動物保護法を有する国の1つで、家畜の扱いについても、飼育の方法を細かく取り決めているなど、動物福祉の観点からいろいろな規則がある。今回登壇した熟豊ファームは、通常は加工肉とされることが多い月齢100カ月程度の経産和牛を丁寧に再飼育することで、ASレベルまで肉質を上げて出荷するという、日本でも珍しい取り組みを行っている。講演では、動物福祉やサステナビリティへの関心が高いスイスのバイヤーに対し、動物福祉に配慮した方法を採用しながら、高品質の和牛を飼育する事例を紹介した。試食セッションでは、参加者から肉質を評価する声が寄せられたほか、「サーロインのようによく知られた高級部位ではなく、他の部位を活用することで可能性が広がることが分かった」などのコメントがあった。

スイス連邦税関局によると、2020年の日本からスイスへの牛肉輸出量は冷凍牛肉が4,984千グラム、金額は61万2,951スイスフラン（約7,662万円）。CHF、1CHF=約125円）、冷蔵牛肉が537千口、5万2,282CHFだった。スイスの年間牛肉輸入量のうち日本からの牛肉が占める割合は冷凍・冷蔵牛肉ともに0.02%、金額ベースでは、冷凍牛肉が0.4%、冷蔵牛肉が0.3%と非常に低い。

世界屈指の高額所得を誇り、購買力の高いスイスで、日本和牛の価値が伝われば、輸入拡大の余地は大きいと考えられる。

令和4年11月7日 朝日新聞



石飛修平さん 熟豊ファーム代表

「経産牛」のおいしさ届ける

健康・環境への取り組みも

和牛を育てるためのこだわりは、餌や飼料の調達、飼育方法、出荷方法など、さまざまな点で環境への負荷を減らす必要がある。熟豊ファームは、環境への負荷を減らすために、独自の飼料を調製している。また、和牛の飼育方法も、環境への負荷を減らすように工夫している。和牛の飼育方法も、環境への負荷を減らすように工夫している。



■ 結果

- EUに初めての経産牛輸出を実行。EU輸出国は8カ国、ドイツ・スイス・イタリア・イギリス・フランス・フィンランド・ブルガリア・クロアチアに拡大。
- ターゲットにしていたEU向けの輸出頭数は53頭、輸出重量は4,357kg。金額ベースで25,303千円。経産牛を使用してもらった業種は、ホテル・レストラン・スーパー・精肉店と多岐に渡り、**新たなバリューチェーンを構築出来たと思料。**
- 国内であれば「なぜ経産牛を使うのか？」といった声が多くある中、海外であれば経産牛を使うことはサステナブルの観点から当たり前であり**当初狙っていた需要のあるマーケットへとアプローチ出来たもの**と考察。経産牛の持つ味の濃さに加え、サステナブルな取り組み、アニマルフレンドリーな仕組み、和牛独特の甘み・脂質等も高評価を頂けた。
- また、本取組・発信等を通じ、他企業もEUマーケットにおける経産牛のポテンシャルを感じ、大手をはじめ経産牛の輸出を始めた企業も。
- これまで日本からの和牛輸出に際して重視されてこなかった新たな「こだわり」を生み出し、この**こだわりを繋げていくという新たなグローバルフードバリューチェーン構築に繋がったと思料。**

以上、成果報告とさせていただきます。
ありがとうございました。